

市民フォーラムについて —地域で完結する先進医療体制の構築—

当院は、「地域で完結する先進的医療体制の構築」を目指し、県内唯一の医育機関として、多くの医師を養成するとともに、高度で先進的な治療の開発と提供を心がけて参りました。このフォーラムを通じて、市民の方々に「島根大学病院の最新治療」を知っていただき、皆様の健康維持にお役立てくだされば幸いに存じます。

島根大学医学部附属病院長 椎名 浩昭



講演会プログラム

- 13:00～ 受付開始
- 13:30～ 病院長 挨拶

各25分講演+5分質疑応答

1 13:35～ 「赤ちゃんとかどものための脳神経外科」



小児脳神経センター
センター長 きみわだ ともみ
准教授 君和田 友美

小児脳神経センターでは、主としてこどもの脳や脊髄の病気に対する外科治療（手術）を担当しています。いまある症状に対してだけでなく、将来の発達を守ることを意識して治療に臨んでいます。また、山陰地方では初となる、乳児の頭蓋変形に対するヘルメット治療も始めました。本講演では、頭が大きくなって見つかる水頭症、頭の形が歪んでいることで見つかる頭蓋縫合早期癒合症、お尻のこぶやくぼみで見つかる二分脊椎症、手足の動きが悪くなったり、言葉がうまく話せなくなるもやもや病に関してお話しさせていただきます。

2 14:05～ 「精緻ながん手術への挑戦

～ロボット支援下消化器がん手術の現在～



消化器外科
准教授 山本 徹

我々、消化器・総合外科で対象としている消化器がんは、主に食道がん、胃がん、大腸がんです。胃がんは、近年減少傾向にありますが、食道がんや大腸がんは増加傾向にあり、特に大腸がんは男性では1位、女性では2位と最も身近ながんのひとつとなっています。がんの治療の原則は、確実な切除（病巣とともに周囲のリンパ節をとる（リンパ節郭清））ですが、それ以上に大事なことは、術後も平穏な日常生活が送られることです。そのために、精度が高く、患者さんに優しい手術法の開発が必要です。我々、消化器グループでは、精密な手術を患者さんに提供できるように、消化器がん全般に対してロボット手術が提供できるように取り組んでいます。そこで、近年の我々の取り組みと、ロボット手術の実際について動画を交えて紹介させていただきます。

3 14:35～ 「高齢者弁膜症の最新医療」



循環器内科
助教 佐藤 寛大

人間の心臓には、4つの部屋があり、血液が一方に流れています。そのために部屋と部屋の間、また心臓から出る大血管には扉（弁膜）が機能しています。ところが、何らかの原因で弁が正常に機能しなくなる病気があります。これが心臓弁膜症です。弁膜症が進行すると、息切れ、動悸、むくみなどの症状が出現し、この状態を心不全と言います。弁膜症は聴診で心雑音を聴取することが診断のきっかけになります。治療は外科的手術が考慮されて、近年、低侵襲治療として足の付け根などの血管に細い管（カテーテル）を挿入することにより弁膜症治療が可能になってきました。日常生活で息切れ、動悸、むくみなどの症状があれば、それは単に「年のせい」ではなく、心臓弁膜症が原因かもしれません。症状に心当たりのある方は早期発見のためにも医療機関を受診され、聴診を受けて下さい。当院では、多職種多診療科で連携した「ハートチーム」が診療にあたっています。

- 15:05～ 全体質疑応答
- 15:30～ 病院長 閉会挨拶